

麦づくり情報(No.1)



1. 麦作況情報田の生育概況

1) 調査結果(1月18日調査)

場所	品種名		播種日	苗立数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈葉数 (L)	概況
牛 津	サチホゴールド 4条播き	本年値	12/14	144	-	144	1.6	小麦は、平年より2日早い播種となった。播種後、適度な降雨と温暖な気象条件で推移したため、生育は旺盛であった。一方大麦は、降雨により播種が遅れたため葉齢の展開が遅れたものの、苗立数は平年並みを確保できた。
		平年値	12/5	128	7.0	190	2.6	
大 和	シロガネコムギ 8条播き	本年値	11/27	276	8.8	504	4.4	
		平年値	11/29	145	8.8	204	3.9	

11月は、平年よりも降雨が少なく、乾いている圃場が多く見受けられた。12月の気温は、上旬は平年よりも高く推移し4日には佐賀市で24.6℃を観測したものの、その後は平年並みの気温であった。また、12月は降雨が多く平年比180%であった。12月28日に平野部で初雪を観測した(平年より8日遅い)。

このような気象であったため、11月中に播種できた圃場は、高温と湿潤な条件のおかげで、出芽も早く旺盛な生育となった。一方、12月に入ってから播種作業は、降雨を挟んでいたため、播種作業が進まず、一部では1月に入ってから播種されているところも見受けられた。このため、圃場によって、生育の差が大きい。

2. 今後の管理

○追肥 ～本葉3～4葉期に実施する～

- ・播種が早かった圃場では生育が進んでいるため、施用時期がやや早くなっている。
- ・施用時期の目安は、本葉3～4葉期であり、11月中に播種された圃場は、1月上旬～1月中旬ごろ、12月上旬に播種された圃場は1月末ごろになると考えられる。今年の場合、特に播種時期により生育に大きな差が生じているため、麦の生育を確認しながら実施する。(大豆後圃場は出芽が早く、生育が早い傾向にあるので、小麦圃場の追肥は、時期を逸しないよう気を付ける。大麦圃場は施肥しない。)

※晩播した圃場で、追肥施用分も併せて元肥に重点施肥した場合は追肥を施用しない。

○麦踏み・土入れ

- ・麦踏みは3葉期以降から始める。土壌の砕土(3cm以上のゴロ土)が悪い圃場では出芽期～2葉期の生育初期に行うと、断根等による初期生育を阻害することがあるため行わない。
- ・麦踏みは土壌が乾燥した状態で行い、土壌が湿潤な状態では行わない。
- ・土入れは、本葉5～6葉期から、圃場の条件をみながら計画的に実施する。
- ・分けつ初期に土入れする土の量が多いと、分けつを抑制することがあるため、基本的に土の量は、生育初期は少なめに、生育が進むにつれて量を増していくこと。

○雑草対策

雑草の発生が見られる圃場では、茎葉処理剤を施用する。現在、土壌処理剤の効果が切れてきた圃場も見られ始めているため、除草剤の処理時期を逸さないように早めに対処する。なお、麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。

薬剤名（茎葉処理剤）	麦生育ステージ	雑草
ハーモニー75DF 水和剤	麦1葉期 ～節間伸長前	スズメノテッポウ 5葉期まで
エコパートフロアブル※	収穫45日前まで	ヤエムグラ 2～6葉期

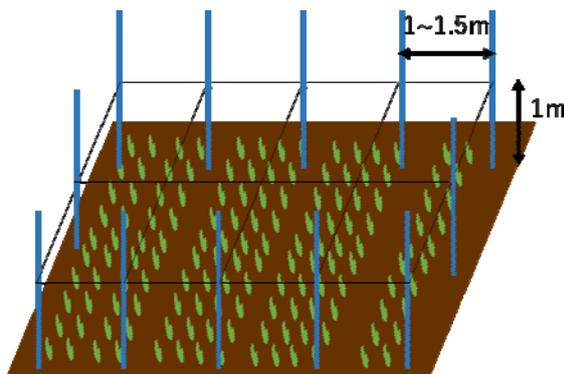
※薬害が生じる場合があるため、麦が生育不良の場合は使用を避ける。

5)鳥獣害対策

今年度は特に鳥獣害の被害の報告がある。対策は以下の通り。

・カラス

黒のワイヤ線としなりやすい支柱を用いて、カラスの翼を広げた時の長さ（1～1.5m）の間隔で約1mの高さに設置することにより、飛来するカラスは嫌がる。ただし、歩いてくるカラス、ハトやカモには効果がない。

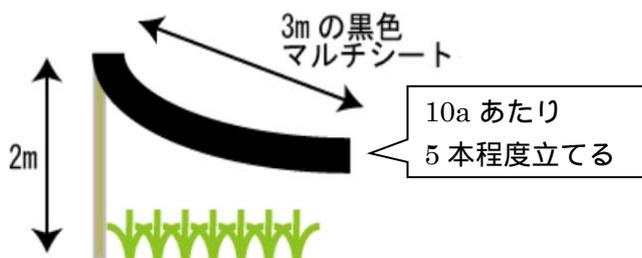


・カモ

特にクリーク沿いにある圃場など食害に遭いやすい圃場では、のぼりを立てる等の対策を実施する。

【のぼりの設置について】

支柱に黒色マルチを吊したものを設置する。カモは水路から侵入することが多いため、圃場の水路寄りの部分を中心に設置すると効果的である。

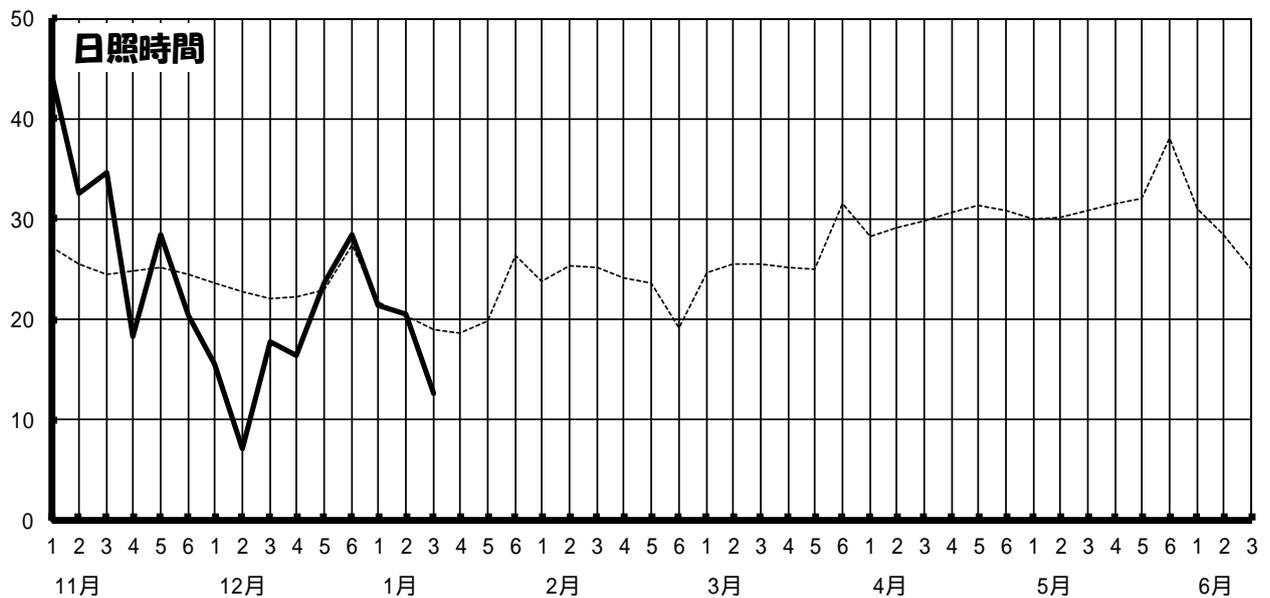
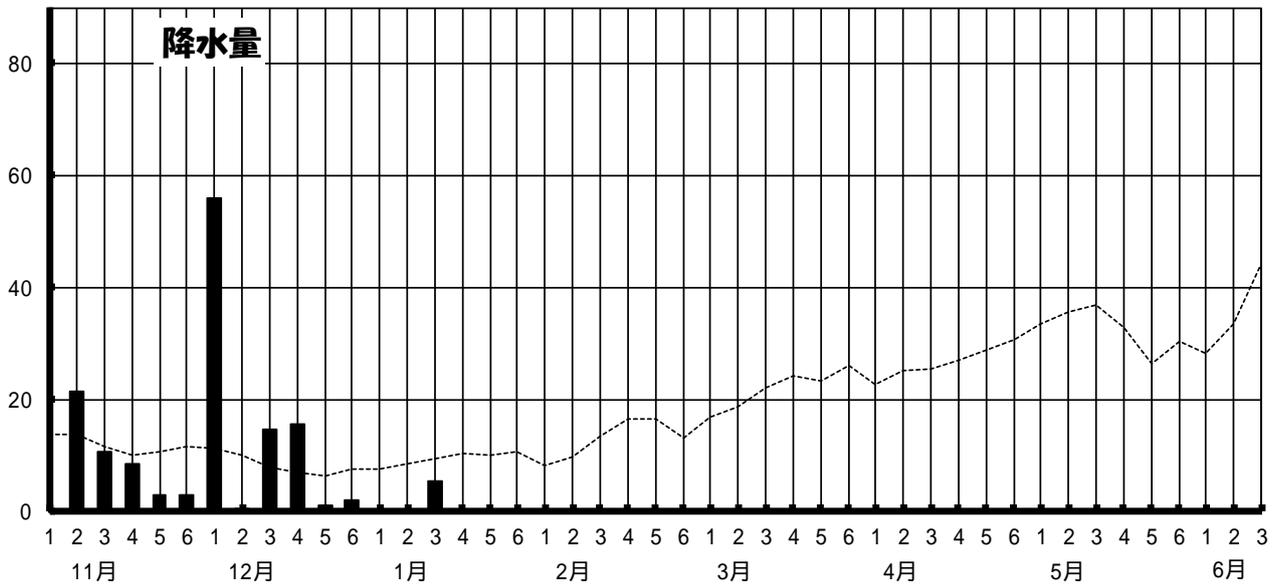
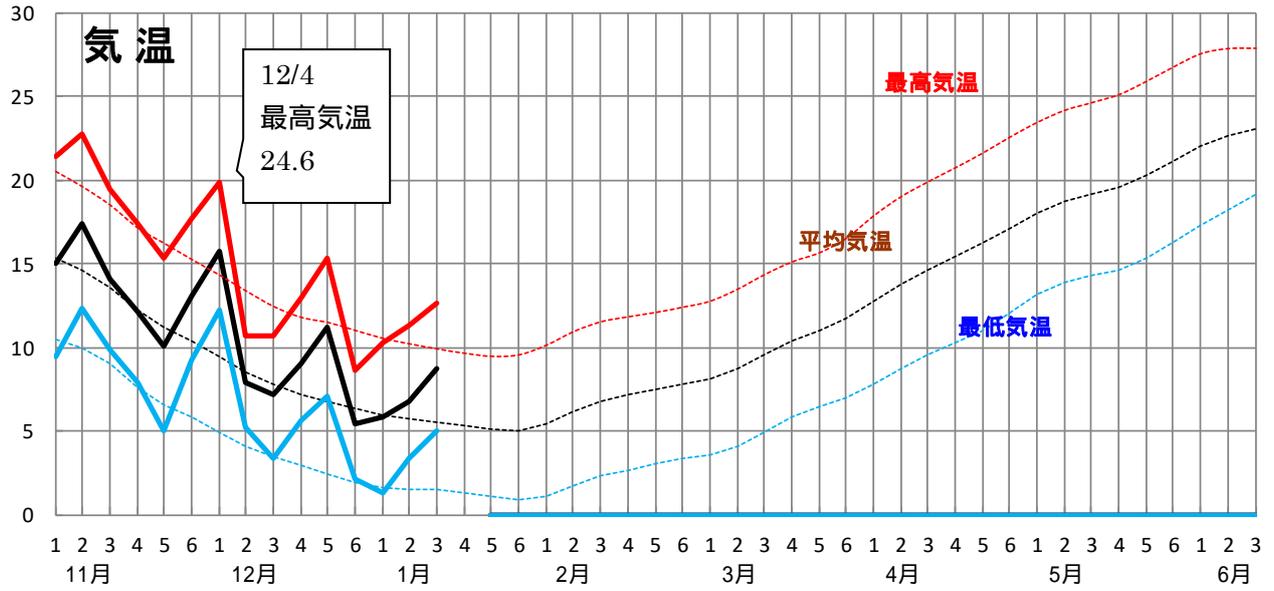


カモによる食害
バリカンで剪定したように見える

31年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値